

スマイル

第6号 2023. 10. 11発行
南つつじヶ丘小学校
通級指導教室



読解力って

なんだろう？



2学期の国語に出てくる単元で「ごんぎつね」という教材があります。大人でも「小学校で習った」と言う方が多い名作です。

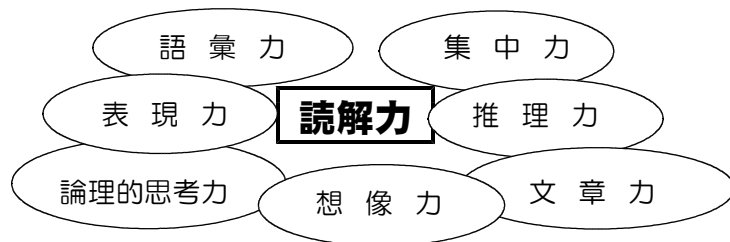
その中にこんなシーンがあります。

「～中略～腰に手ぬぐいを下げたりした女たちが、表のかまどで火をたいています。大きななべの中では、何かぐずぐずにえていました。」

先日「これって何を煮てると思う？」とある子どもに質問すると「死んだおっかあ」という答えが返ってきました。

ドキッとしたので、あらためて読解力って何か調べたり、考えたりしてみました。

読解力は、



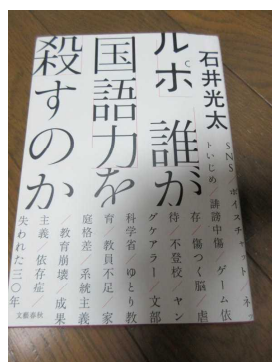
などの複数の力に支えられているそうです。

新聞記事や本を読むということは、これらの複数の力に全て関連しているので、「読書はオススメ！」と言われるのですね。

文章を早く読む力をつければ、テストの時「考えることに多くの時間を使うことができる」などと書いてあるものもありました。

また、読解力は「聞く」「話す」ことの影響も大きいことから、大人が聞き役となってコミュニケーションの時間を増やすのも有効だそうで、子どもが大人に筋道立てて話そうとするために「論理的思考力」や「表現力」などの力も伸びるそうです。

今回のことをきっかけに、昔のことを知らなかったり、経験が不足していたりする影響も大きいのでは・・・感じました。



「ルポ誰が国語力を殺すのか～文藝春秋社～」という本の中に、まさに授業でこういう答えをする児童が増えてきているという内容が出ています。様々な子ども達の現状について書かれた本です。読みたい方はお知らせください！

秋の夜長を 楽しみましょう



この前まで暑かったのに・・・と思いながら、日が暮れるスピードや朝晩の涼しさで一気に秋？冬？の気配を感じるようになりました。

秋の夜長と言われるこの時期です。

今までやりたかったのにできなかった読書などを夜の間に短時間続けてみるのもいいですね。



敬老の日って何？

ちょっと意識して会話してみませんか？

通級では、季節感や一般的な行事のことなども生活の中で意識して欲しいと考えていて、お話の話題に取り上げることがあります。

2学期は祝日が多いので、できるだけそのいわれや意味も伝えるようにしていたのですが、先日の「敬老の日」をうっかり伝えそびれてしまいました。

敬老の日が過ぎた通級の時間に・・・(T:教師C:子ども)

T「この前のお休みは何の日やったか知ってる？」

C「え～、何やったっけ？」

T「『敬老の日』やったんやで」

C「『けいろう』って何？」

こんな会話がありました。確かに難しい言葉です。

高学年の児童には「敬老」と漢字で書いて、漢字からイメージできるように、また、「行事の絵辞典」などの本を使ってイラストから分かるように、伝えました。最近は、家族や個人のことは話題に取り上げることが難しいと聞きますが、せっかくの祝日です。少し会話に入れてみてはいかがでしょうか？

